

2022年度 グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2022年度は、2021年度に完成年度を迎えた現行カリキュラムに、本学部での学びを支えるあらゆる科目が複数加わった。以下、科目群ごとに概要を記す。

- ① 必修科目(講義系): 1年次を対象にコース横断の「グローバル地域文化論Ⅰ・Ⅱ」(旧カリキュラムでは「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」)を開講した。また、おなじく1年次を対象に3コースそれぞれが「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ」(旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2年次対象)を開講した。「グローバル地域文化論Ⅰ」では、複雑で多様な現代世界を理解する試みとしての「グローバル地域文化学」の基礎を、「グローバル地域文化論Ⅱ」では、グローバル化にかかわる重要な問題群を複数のディシプリン(学術的専門分野)からアプローチする方法を、複数教員がリレー講義形式で扱った。また、「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ」では、各コースでの学びの基礎となる地域概念や各国事情、歴史的背景や政治・文化・社会状況について扱った。
- ② 必修科目(演習系): 1年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」(旧カリキュラムでは「グローバル地域文化入門セミナー」は2年次対象)では、文献読解、文章作成、情報検索の方法や、批判的思考、問いの立て方、口頭発表やディスカッションなど、大学での学びの基礎を鍛えた。また、3年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、基本文献の輪読や各自のテーマ設定、先行研究の批判的読解、文献リストの作成をおこなった。また4年次の学生には「卒業論文」の履修を課し、担当教員が別指導をおこなった。その結果、177名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された(うち5名は春学期末に提出)。
- ③ 選択必修科目(講義系): 「グローバル・イシューⅠ～Ⅱ」では、内容の変更・調整を経て、カリキュラムの4つの軸の一つである「トピック/イシュー」をグローバルな観点から学ぶ講義が揃った。11科目のうち6科目は1年次から履修可能となっている。
- ④ 選択必修科目(演習系): 2年次対象の「グローバル地域文化教養セミナーⅠ～Ⅲ」では、領域横断的・超領域的なアプローチを身に着ける前提として、各ディシプリンに固有の考え方やアプローチ、視角、学問的な手続きを学ぶために、テキストの読解やグループ発表、ディスカッションなどをおこなった。
- ⑤ 選択必修科目(スタディ・アブロード科目): 学部独自の留学プログラムである「海外インターンシップ」と「海外語学プログラム(英語)」は3年ぶりの渡航が実現したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施可能となるプログラム数が減少するとともに、費用が大きく高騰した。こうした状況を考慮し、身近なグローバル・イシューについて英語で発信できる力を養成する「グロー

バル地域文化学の発信」を新設し、後述する「グローバル地域文化学の実践 1～5」と併せて履修することで、卒業要件を充足できる選択肢を拡充した(35名の学生が履修)。また、留学経験を将来のキャリアに活かすことを支援する「留学とキャリア形成」も開講した。

- ⑥ 選択科目(講義系):コースごとに当該地域の歴史、文化、課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。また、選択科目 A 群に、国内でグローバルな体験を積むことのできるフィールドワーク・プロジェクト型の科目である「グローバル地域文化学の実践 1～5」を新設した(73名の学生が履修)。さらに、同じく選択科目 A 群に、この科目と併せて履修を推奨する「質的調査の方法」と「計量分析の方法」を新設した。
- ⑦ 選択科目(演習系):卒業論文執筆にあたって必要な外国語文献および資料の読解や検索の基礎を学ぶ「〇〇語で学ぶ地域文化研究(英語・初修言語)」と、英語でグローバル・イシューを学び考える「Global and Regional Cultural Studies Seminar」を開講した。
- ⑧ その他:外部試験結果による英語科目の単位認定を実施している。

II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2022 年 12 月に 1 年次生(2022 年度生)と 3 年次生(2020 年度生)を対象に学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。コロナ禍のため本年も引き続き Microsoft Forms を使ったオンライン形式で実施した。2022 年度分アンケートについてはまだ十分に分析できていないが、全般的には学部専門科目、外国語科目とも満足度が高いことが示された。一方で、個別のコメントから語学(英語・初修)科目の改善要求、学部科目の内容充実の要望などが明らかになった。コロナが収束しつつあることを反映してか、留学に前向きな回答が数多く得られる一方、留学制度等への丁寧な説明をする必要性が明らかになった。一方、前年度の FD アンケートの詳細な分析から、本学部に希望する授業について、コース問わず「広い視野・グローバルな授業」が挙げられているが、学年が上がるにつれて、「語学力」を重視する回答から「専門性のある授業」「幅広く学べる授業」という学術的な奥行きあるいは幅を要求する回答が多くみられるようになるという知見が得られた。また、セミナーについては全体的に肯定的な評価がなされているが、発表の機会への不満などが一定数回答されている点には注意が必要である。今後、カリキュラムを検討しながら改善を図りたい。

2022 年 7 月の教授会後に FD 研修会を実施した。任期付き教員も含め、少人数に分かれて学部内の制度的な問題や授業の工夫、課題についてブレインストーミングを行い、意見交換を行った。今後もこのような FD 研修会を開き、学部教育の質向上を図りたい。

父母懇談会は、コロナ禍の状況に鑑みてオンライン開催とし、2022 年 11 月 12 日(土)、Zoom ウェビナーによるオンライン形式で行った。コンテンツは学部長挨拶、学部教育に関する説明、在学生による体験談、キャリアセンターからの就職状況・就職活動・キャリア支援についての説明で構成し、約 120 件のアクセスがあった。

Ⅲ. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて研究機関誌『GR』（論文、研究ノートなど）、2022年10月に第19号、2023年3月に第20号を発行した。

2022年12月14日（水）に、第10回グローバル地域文化学会学術講演会「グローバルに見る若者の不安と希望」をZoomを利用したハイブリッド型で主催した。本学部学生の発表に対し、井上慧真（帝京大学文学部講師）、轡田竜蔵（同志社大学社会学部准教授）両氏によるコメントがなされたのち、学内の参加者を中心に活発な質疑応答が行われた。

また、2023年1月9日（月・祝）に小規模講演会「The Weight of the Past -Dilemmas of Contemporary American Foreign Policy in Historical Perspective」を開催し、Thomas Alan Schwartz 氏（ヴァンダービルト大学歴史学部教授）による講演がなされた。

2023年1月18日（水）に小規模講演会「厄災の記憶の写真「水俣・写真家の眼プロジェクト」から」を開催し、アイリーン・M・スミス、奥羽香織両氏による講演がなされ、清水穰、吉川雄大、樋口のゆり各氏からコメントが付された。

教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本研究者データベースを参照されたい。（URL: <https://kendb.doshisha.ac.jp>）

Ⅳ. 国際交流活動

2022年度も引き続きコロナ禍の影響を受け、本学部独自の国際交流活動は限定的ではあったが、渡航に関する制限が緩和され、複数の海外留学およびインターンシップのプログラムが再開した。

本学部独自のプログラムであるウェスタンミシガン大学への Semester 留学、オーストラリア・メルボルンでの海外インターンシップが2019年度以来3年ぶりに実施された。オンライン・プログラムの海外インターンシップ（デンマーク、アイルランド）も開講された。

また、2022年度は全学の派遣留学プログラム（A日程・B日程）においても大部分が渡航可になったが、一部オンラインで実施された。

ドイツ語・異文化理解 EU キャンパスプログラム、ヨーロッパ・スタディーズ EU キャンパスプログラム、ウィニペグ大学 Semester プログラム、ハワイ大学マノア校 Semester プログラムが渡航を伴うかたちで実施された。

サマープログラムはコロナ禍の影響を受けて全面的に渡航中止となり、セブ医科大学提携 Campus Language Center、カリフォルニア大学デービス校、カリフォルニア大学サンディエゴ校、マルティン・ルター大学、北京大学によりオンラインプログラムが実施された。

スプリングプログラムは、ヨーク大学、カリフォルニア大学アーバイン校、フライブルク大学、CAVILAM-Alliance française (クレルモン・フェラン大学監修)、サラマンカ大学のプログラムが渡航を伴うかたちで実施された。セブ医科大学提携 Campus Language Center、オタゴ大学はオンラインプログラムとなった。

今年度中に本学部が受け入れた海外からの客員研究員はアーモストフェローだけであった。第61代アーモストフェローのマディ・テイラー (Maddy Taylor) 氏は2021年9月1日から2022年8月31日まで、第62代アーモストフェローのオリヴィア・ドイル (Olivia Doyle) 氏は2022年9月1日から2023年8月31日までが在任期間。フェローの同志社大学でのアドヴァイザーは本学部の英語教務主任・尾崎茂教授である。アーモストフェローシップは、アーモスト大学が学生代表を同志社大学に派遣する1958年創設のプログラムであり、両校の友好関係促進を趣旨とする。その前身のアーモスト・同志社プログラムは1922年に始まっており、通算100年の歴史を持つプログラムである。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあつた。

石井香江准教授

・ジェンダー史学会の理事兼運営委員として第20回年次大会(2023年12月10日)の準備を開始した。日本ドイツ学会で幹事兼編集委員の一人として投稿論文の査読を行った。

見原礼子准教授

・「子供を性被害から守るための取り組み-国際的な動向を踏まえて」長崎市私立幼稚園協会 長崎市私立幼稚園協会教師研修会において講師を務めた。2021年8月27日。

清水穰教授

・『ポーラ美術館コレクション』のうちゲルハルト・リヒター「抽象絵画」の解説をした。
・『Gerhard Richter』(国立近代美術館)のうち「オイル・オン・フォト」。

立石洋子准教授

・ロシア史やロシアとウクライナの関係などに関連して、他大学の公開講座や市民講座、研究機関で講演を実施し、新聞の取材に対応した。

向正樹准教授

・高大連携歴史教育研究会第8回大会「探究型の開かれた、架橋する歴史教育」を、同志社大学を開催校として対面とオンラインで開催した。2022年7月30日、7月31日。

Aysun Uyar 准教授

・ASPOS 政治社会学会理事会
・ICAS Book Prize 日本語版 Secretariat

二村太郎准教授

・西陣まちおこしの会の西陣朝市マルシェ(於西陣児童公園)でボランティアをした。また、同会に役員として参加した。

和泉真澄教授

・オンライン対談「『私たちが声を上げるとき アメリカを変えた 10 の問い』(集英社新書)刊行記念 TSUTAYA オンライン・トークイベント」オンライン開催、2022年7月13日。

Susanna Pavloska 准教授

・Associate Editor, *Kyoto Journal*

坂本南美准教授

・小中学校の英語科教員を対象とした教育委員会主催の授業研修会で講師を務めた(津山市教育委員会、奈良県教育委員会、三田市教育委員会)。中学生英語暗誦大会の審査員・講師を務めた(三田市教育委員会)。

立林良一准教授

・日本スペイン協会の西検委員を務めた。

宇佐見耕一教授

・アルゼンチンを現地調査し、現地ラジオ放送に2度出演した。また、アルゼンチンの学生へのオンライン授業1回、現地研究会へのオンライン発表を1回行った。

VI. 学生支援活動

- ① 学習支援:外部の外国語(英語・初修外国語)検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行っている。また、TOEFL ITP®一斉受験に加えて、前年度に引き続きIELTSの集中対策講座(オンライン)を実施するなど(検定試験の団体受験は中止したが)、新型コロナウイルス感染拡大により留学の機会が減少しているなか、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。
- ② キャリア形成支援:従来まで行われていた本学部生向けの「グローバルキャリア・シリーズ」を発展させるべく、就職委員会の教員に加えてキャリア形成に従事する学生有志団体「グローバル★キャリア企画」を組織した。学生の目線からGRでの学び、留学、キャリアを連続的にとらえることを目的にし、連続シリーズ「グローバル・キャリア・トーク」を2回企画した。本企画では、グローバル地域文化学部のある在籍生と卒業生のつながりを強化すべく、講演者は卒業生に依頼した。また、学生は、企画の準備、講演者との連絡、当日の司会と進行を主として担当することによって、主体性とコミュニケーション力をみにつける機会となった。

・第1回グローバルキャリア・トーク「自分と向き合い、生き方を磨く」

日時:2022年7月14日(木)16:40~18:10

講師:織田夏実(南オーストラリア州政府児童保護省庁、ソーシャルワーカー)

会場:オンライン(zoom)

対象:GR 学部生ならびに卒業生(他学部の参加も可)

参加人数:アクセス数30名

- ・第2回グローバルキャリア・トーク「先輩に聞いてみよう!GR 学部生の留学×就活体験談」

日時:2023年1月19日(木)16:40~18:40

会場:オンライン(zoom)

対象:グローバル地域文化学部在学学生

参加人数:アクセス数28名

【プログラム】

第一部 挨拶・話題提供 16:40~18:15

16:40 挨拶と企画の趣旨

16:45~16:55 尹 慧瑛先生 GRでの学びとキャリアについて

16:55~17:15 アメリカコース 2020年度卒業生

17:15~17:35 アジア・太平洋コース 2019年度卒業生

17:35~17:55 ヨーロッパコース 4年次生

17:55~18:15 アジア・太平洋コース 4年次生

第二部 留学×就活トーク 18:15~18:30

第三部 個別相談会 18:30~18:40

- ③ 同窓会におけたつながりの構築において

GR創設10周年を迎える次年度において、卒業生間につながりの構築し、近未来において同窓会を発足できるような環境づくりを就職委員会がいかに支援できるのか、その可能性と学生間の相互連携におけた対策を検討することなどが課題となった。

以上